
基調講演 B：イノベーション・エコシステム

有本建男：日本経済は長年にわたる過剰債務処理から回復しつつあり、昨今の焦眉の課題となっているのは、労働力、資本、及び技術的進歩の適切な配分によって持続的成長を達成することです。1980年代までは資本要素が日本の経済成長を牽引してきましたが、高齢化社会の到来により、私たちはもはや労働力と資本要素に依存することはできなくなり、したがって技術の進歩による寄与を必要としています。つまり日本経済は、技術開発を通じて生産性を高める必要があるというわけです。

日本経済の回復には、よりよく機能するイノベーション・システムとしての新しいナショナル・イノベーション・エコシステムの整備が必要です。まさにこうしたシステムの必要性は、最新の科学技術政策でも提唱されています。小泉首相と経団連の御手洗会長は、持続可能な開発のためにイノベート日本プログラムを提案しました。そして2006年から2010年までの科学技術の新しい5ヵ年計画が承認されました。この5ヵ年計画は、日本独自の科学技術の発展に基づく知識ベースのイノベーションに重点が置かれています。

私たちは、多くの分野の知識と技術の融合を達成する必要があります。例えば、生命科学、ロボット工学やナノテクノロジーのような他の分野と情報技術の統合に高い期待が寄せられています。

ノーベル賞を受賞した白川博士の導電性ポリマーについての研究や、今回の会議で発題者のお一人である橋本教授による光触媒素材の研究のような日本の基礎研究に基づいたすばらしいイノベーションの例がたくさんあります。

現代の市場の複雑な状況では、管理者には、イノベーション・プロセスですべてのステークホルダーを管理する幅広い専門知識が要求されますし、政策決定者と計画立案者の間の対話がますます重要になってきています。そこで私たちは、スクリーンのチャート図で示したように、いずれも持続可能性と開発につながる、ナショナル・イノベーション・エコシステムからリージョナル・エコシステム、グローバル・エコシステムへと拡大して行くイノベーション・エコシステムの枠組みを提示しようと努力しています。このチャート図には賛否両論があるかと思います。この会議で是非議論して頂きたい点です。レトリックと現実の間にはいまだに大きなギャップがあることは確かです。